



RS ROOF 2液 F | RS ROOF 2液 Si

RS ルーフ2液F・Si

弱溶剤2液形フッ素・シリコン樹脂屋根用遮熱塗料

# RS ROOF 2液 F・Si

屋根の表面に直射日光が当たると、表面温度が上昇し、

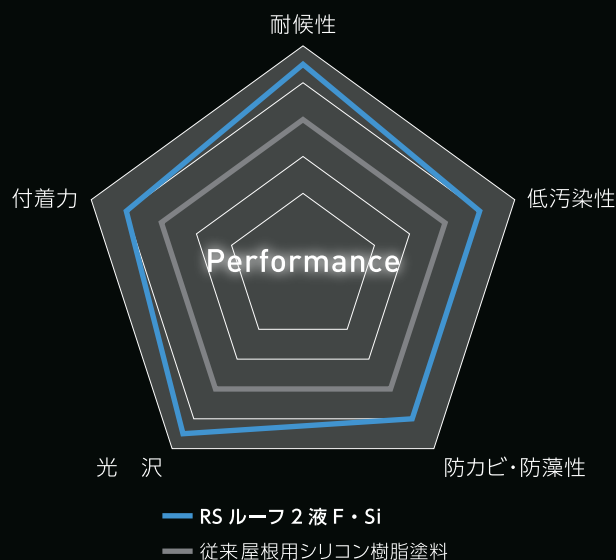
それによって建物内も暑くなります。

「RSルーフ2液F・Si」は太陽光（赤外線）を効率よく反射し

屋根の表面温度の上昇を抑制するだけでなく

建物内の温度上昇も防ぐことで

快適な室内環境づくりや冷房費の節約などに貢献します。



## 優れた遮熱効果

上塗と下塗のダブルで太陽光(赤外線)を反射する「Wブロック効果」により、優れた遮熱効果を発揮します。

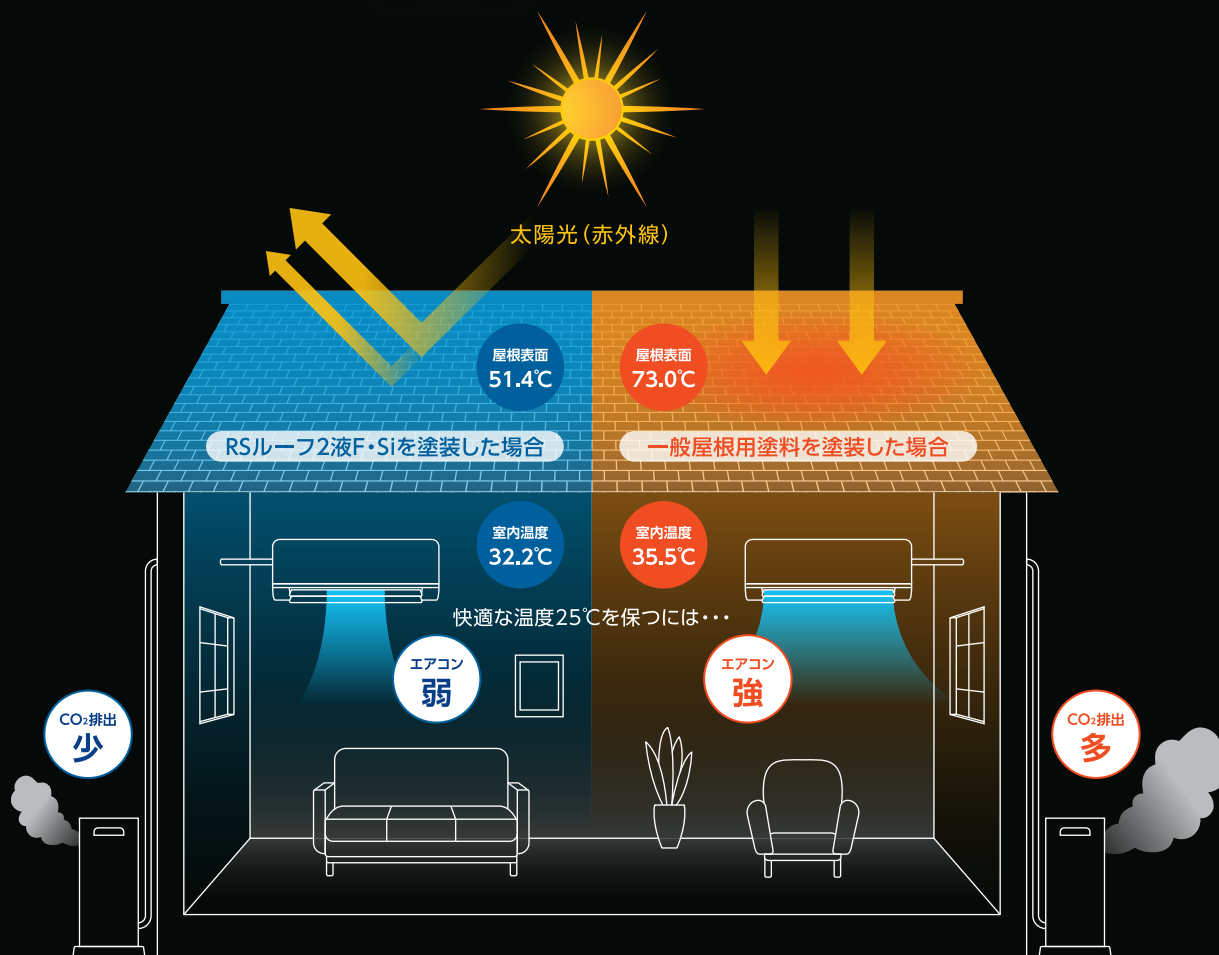
## 日射反射率

遮熱効果の高さがひと目で分かるように独自のCOOLレベルを表示しています。屋根の色選びにお役立てください。

## ラジカル制御技術採用

関西ペイントテクノロジーを駆使した、塗膜劣化の原因物質である「ラジカル」の発生を抑える4つの塗膜コントロール技術で、塗料の耐久性を飛躍的に向上させます。

RSルーフ2液F・Siと一般屋根用塗料の比較



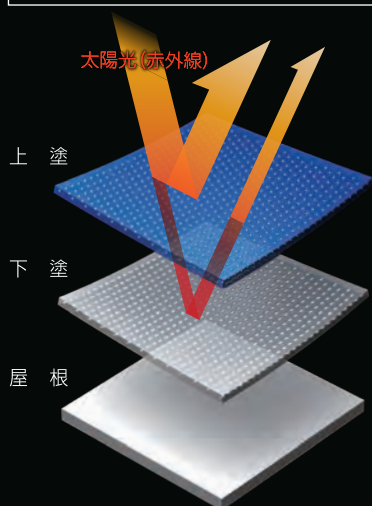
※SMASHver.2[(財)建築環境・省エネルギー機構]で計算。設定値、屋根素材:鋼板0.4mm/合板12mm/通気層30mm/押出法ポリエチレンフォーム3種50mm/合板12mm、屋根面積:150m<sup>2</sup>、室内容積:312m<sup>3</sup>、床面積:104m<sup>2</sup>、冷房稼働時間:8~17時(年中)、室温が25°Cを超えた場合にエアコンが稼働すること。(設定温度:25°C、地域:東京)※色合いはコーヒーブラウンを使用。

# Wのブロ

太陽光（赤外線）を反射し、屋根

優れた遮熱効果

Wブロック効果



太陽光(赤外線)を効率よく反射する特殊な顔料を配合した塗料を2段階に分けて塗付します。上塗塗料を透過した一部の太陽光(赤外線)も下塗塗料でしっかりブロックすることで、屋根の温度上昇を抑制します。

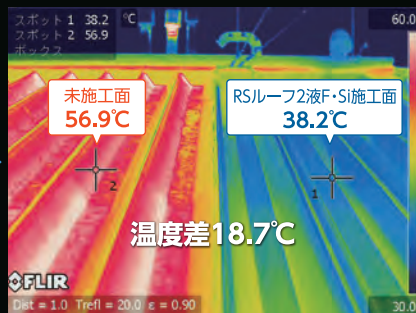
# ツク効果

表面や室内の温度上昇を抑制。

関西ペイント小野事業所での試験結果

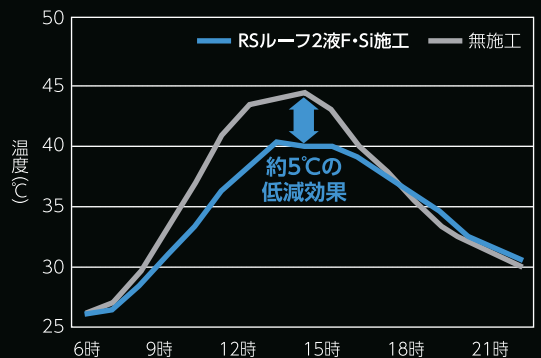
太陽光(赤外線)を効率よく反射し、熱を遮る

RSルーフ2液F・Si(右半分)と一般の屋根用塗料を塗装した物件



赤外線サーモグラフィ画像

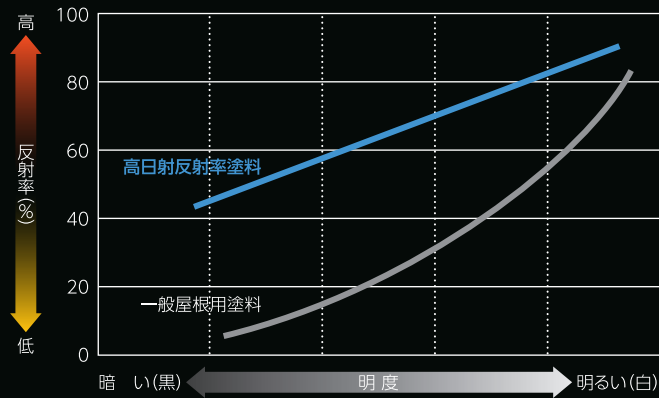
■ 室内温度 天井より約50~100cm下の温度を測定



日射反射率

RSルーフ2液F・Siは特殊顔料を使用しているのですが、どの色でも同じ色同士で比較すれば一般の塗料より効率よく太陽光(赤外線)を反射します。しかし、反射率は色によって違いがあり、暗く黒っぽい色ほど反射率は低く、明るく白っぽい色ほど反射率は高くなります。つまり、遮熱塗料でも黒系の遮熱塗料の場合、白系の一般塗料の方が遮熱性が高くなる場合があります。それほど色選びは遮熱に大きく影響するので、色の濃度に考慮することも重要です。

■ 塗膜の明度と日射反射率の関係

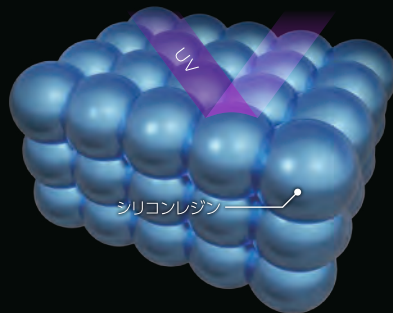


ラジカル制御技術

「ラジカル」とは、塗料の主成分のひとつ「酸化チタン」に紫外線が当たることにより発生する物質で、塗膜を破壊し劣化を促進させます。この「ラジカル」の発生を4つの塗膜コントロール技術で根本的に抑え、屋根を長期にわたり保護します。

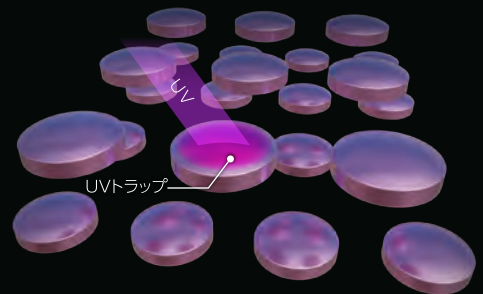
高性能レジン

超強力な結合エネルギーを持つ  
国産「高性能レジン」で紫外線劣化を阻止。



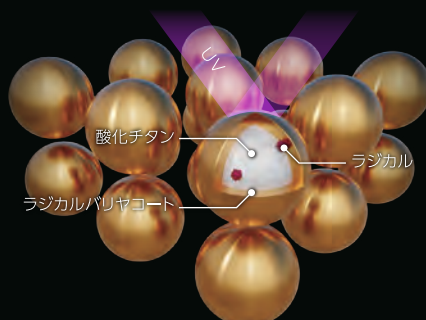
UVトラップ

「高性能レジン」をすり抜けた紫外線を、  
「UVトラップ」で無害化。



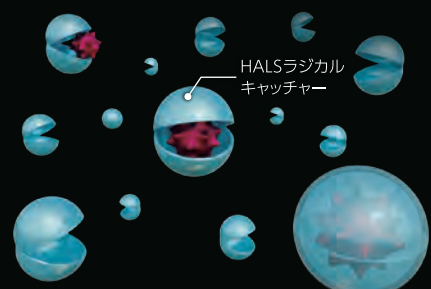
ラジカルバリヤコート

酸化チタンを覆う重厚な「ラジカルバリヤコート」で  
紫外線によるラジカル発生を抑制。



HALSラジカルキャッチャー

極微量すり抜けた紫外線によって発生したラジカルは  
「HALSラジカルキャッチャー」で捕獲し無害化。



標準色 屋根用

ジェットブラック

①



コーヒーブラウン ◎

①



ネオブラック ◎

①



カーボングレー

①



チャコールブルー ◎

①



ナスコン ◎

①



チョコレート

① ②



セピアブラウン

① ②



アイビーグリーン

① ②



ロイヤルレッド ◎

① ②



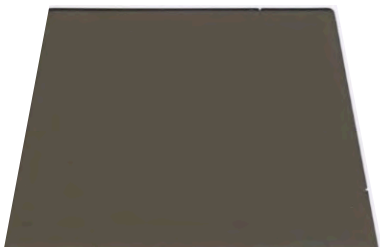
グレー

① ② ③



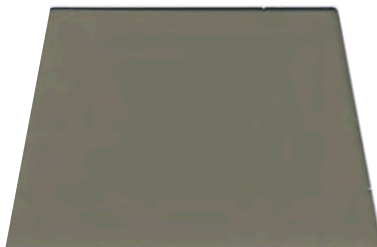
アンティークブラウン

① ② ③



アンバーブラウン

① ② ③



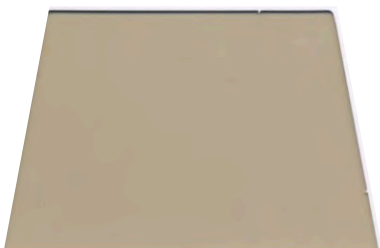
カルムブラウン

① ② ③



シティグレー

① ② ③ ④



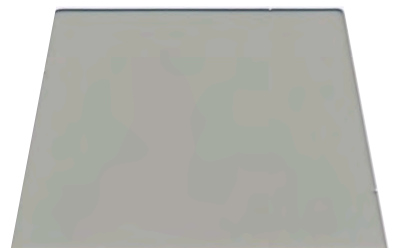
ベージュ

① ② ③ ④



サンドベージュ

① ② ③ ④



シルバーホワイト

① ② ③ ④

COOLレベル 日射反射率 ① ② ③ ④ … 70~80% ① ② ③ … 60~70% ① ② … 50~60% ① … 40~50%

※この色見本は、紙に塗装していますので、実際の色・ツヤが異なる場合があります。 ※◎印は、材料費が割高になります。 ※色見本は経時劣化により変色していきますので、直射日光の当たる場所や高温多湿の場所には保管しないでください。 ※見本帳の有効期限は2026年7月です。 ※色選定の際は、裏面の注意事項をご参照ください。

## 色選定の際の注意事項

- 塗料の種類により同じ色相でも色・ツヤが異なる場合があります。
- 広い面積に塗られた場合、実際の色よりも多少明るく見える場合があります。

- 日射反射率は下地の状態や塗装仕様、施工条件などにより多少の増減が生じます。

## 施工上の注意事項

- 遮熱性能は色合いによって異なります。
- 標準所要量は一般的な条件での塗装作業に必要な塗料の参考値です。従って被塗物の形状や塗装条件などによって増減します。
- 開缶時および容器に移し換えたときには色が分離したり、沈降している場合がありますので、使用前に十分攪拌してください。
- 弱溶剤型の塗料を開缶した後に貯蔵する際は、水分に注意し、密封してから冷暗所に保管してください。
- 高温(40℃以上)、低温(-5℃以下)での塗料保存は避けてください。
- 錆が発生している箇所などはワイヤーブラシ・サンドペーパー等で完全に除去してください。
- 下地調整が不十分な場合には、塗膜の膨れ・割れ・剥がれの原因となったり、光沢が出ないもしくは艶ムラが発生するなど仕上り不良が生じる恐れがあります。ホコリ・油・樹液などは塗装前に溶剤拭き・水洗い(温水)等で十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。特にトタンの折り曲げ部はホコリ・砂等が溜まりやすいので入念な清掃を行ってください。
- 高圧洗浄を行うと屋根が滑りやすくなりますので、足場には十分注意してください。
- 洗浄後、新生瓦の破損、役物の釘浮き、シーリング切れなどのチェックを行い、補修が必要な場合には適切な処理を行ってください。
- 低温・多湿時に塗装し、未乾燥状態で夜露等にあたると艶引けが生じる場合があります。
- 強風時や降雨の予想される日の塗装、および気温が5℃以下、湿度85%以上となる日の塗装は避けてください。
- 塗装後、降雨や結露などで白化した場合には目粗しを行って、再度塗装してください。
- 昼夜の温度差が激しい時期は、結露による艶引け現象が発生しやすいため、時間を考慮して塗装を行ってください。
- 他の塗料との混合は絶対に避けてください。
- 水性塗料を塗装する場合は、ナイロン刷毛を使用してください。獣毛刷毛は刷毛固まりを起す場合があります。
- 弱溶剤系塗料の希釈は必ず「塗料用シンナーA」を使用してください。ただし、市販の塗料用シンナーの中には適合しないものもありますので注意してください。
- 「アレスクールプライマー」、「アレスクールシーラー」、「RSルーフ2液F」、「RSルーフ2液S」はベースと硬化剤がセットになっている2液形の塗料です。所定の割合(重量比)で混合して、十分攪拌した後にご使用ください。また、調合した塗料は、必ずその日のうちに使用してください。長時間経過した塗料を塗装した場合、塗膜性能が低下します。
- 使用した塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーを使用してください。
- 品質が保持する塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と膜厚確保による施工を行ってください。特に上塗り1回塗りでは十分に発色、隠ぺいしない場合や、遮熱・塗膜性能が発揮されない場合がありますので必ず2回塗りを行い、標準塗装仕様を守ってください。
- 過希釈による施工は、剥離・仕上り不良・色分かれの原因となりますので所定の希釈率を厳守してください。
- 塗装後、スクや塗り残しがある場合は、補修塗りを行うか再度全面塗装してください。
- 有機溶剤を使用しているため施工・保管には十分注意してください。
- 積雪の加重を最も受けやすい軒先部分、瓦棒の凸部、はぜ部にはこすりつけるように増し塗りを行ってください。

## ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

### 【予防策】

- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気、スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護めがね・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。
- 火気避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
- 火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
- 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱いは、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

### 【対応】

- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。

- エアレス塗装を行う場合は、塗装ミストの飛散防止のために十分な養生を行ってください。
- エアレス塗装を行ったのにハケ・ローラーで補修塗りを行うと、補修箇所の色相が異なる場合がありますので、ハケなどで補修塗りを行う場合は事前に行ってから全体にエアレス塗装を行ってください。
- 塩ビ鋼板の塗り替えでは、下塗り塗料に白色の「エポマリンGX」、または「エスコ」をご使用頂き、標準塗装仕様にて塗装してください。
- トタン素地露出部は「アレスクールプライマー」または、「アレスクールメタルプライマー」で補修塗りを行い、その後標準塗装仕様で塗装してください。
- スノーダクトのような勾配のほとんど無い屋根の塗り替えは、高い耐水性能を要求されるため必ず標準塗装仕様を遵守してください。また、没水部への適用は避けてください。
- 下塗りにJIS K 5629 鉛酸カルシウム錆止め塗料は絶対に使用しないでください。
- ガルバリウム鋼板は素材自体が遮熱性と熱放射性に優れています。一般塗料に比べ「RSルーフ」は遮熱効果を発揮しますが、素材自体と比較した場合、それほど遮熱効果は期待できませんのでご注意ください。
- ガルバリウム鋼板屋根の塗り替えは下記の要領で行ってください。  
ケース1 [旧塗膜がある場合]:旧塗膜の付着が健全であることを確認の上、目粗しを行い、標準仕様で塗装してください。  
ケース2 [旧塗膜がない場合]:ガルバリウム鋼板表面には化学処理等が施されている場合があり、特に新設時には塗料の付着性が著しく劣ることがあります。(尚、化学処理は経年で流れ落ちるため、塗装適性は向上します。)そのため事前に「アレスクールプライマー」を試験塗装し、ガムテープで付着性が良好なことを確認の上、塗装仕様書に基づき施工してください。付着が良くない場合は、使用しないでください。
- 洋風コンクリート瓦(モニエル瓦など)、粘土瓦(いぶし瓦、釉薬瓦など)には塗装できませんので、ご注意ください。
- 窯業系屋根材は金属系屋根材に比べ、素地への吸い込みが生じやすくなります。窯業系屋根材を塗装する際には、下地の状態を確認し、下塗の吸い込みが著しい場合には、再度下塗を塗装して表面が濡れ色になることを確認してください。
- 窯業系屋根材に付随する金属部分については金属系屋根材の標準塗装仕様で塗装してください。
- シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、ワレの原因となります。
- 汚れ、傷などにより補修塗料が必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 塗装後、水切り部で住宅用スレート(カラーベスト、コロニアルなど)の重なり部分が塗料で詰まった場合には、皮すきなどで必ず縁切りを行なってください。瓦の上下に隙間がないと通気が不十分になり、結露水などの影響により漏水や素材の腐食、塗膜剥離、膨れなどに繋がる恐れがあります。
- 既に雨漏りのある場合は塗装を施しても直りません。雨漏りには構造上の原因を追究し、対策をとることが必要となりますのでご了承ください。
- 「アレスクールメタルプライマー」は窯業系屋根材には塗装できませんので、ご注意ください。
- 「アレスクールプライマー」は「アレスクールメタルプライマー」に比べ、高い反射率を有しています。

- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

### 【保管】

- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

### 【廃棄】

- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所に廃棄しないこと。)

### 【施工後の安全】

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
- 例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。